



2023-2024 年度
10月号
NO. 408

強調月間

ASF

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HIGASHI

CHARTERED 1988

〒135-0016 江東区東陽 2-2-20 東京 YMCA 東陽町コミュニティセンター内 TEL03-3615-5565

国際会長：ウルリック・ラウリドセン(デンマーク) 主題「輝かそう あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：利根川恵子(川越) 主題「変革のための光となろう」

東日本区理事：山田公平(宇都宮)

主題：「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、地震と喜びを感じる機会を！」

関東東部部長：長尾昌男(千葉ウエスト) 主題：「親睦を糧に、クラブライフの充実」

東京ひがしクラブ会長：金丸満雄 主題「円やかに！クラブライフを楽しもう！！」

10月例会



と き 2023年10月12日(木)
PM6:30~8:30
と ころ 東陽町センターYMCA ホール

受付：野本多美子
司会：沖 利柯

★プログラム

開会点鐘

ワイズソング/ワイズの信条

開会挨拶 会長 金丸満雄

ゲスト紹介

食前の感謝

今月の誕生日・結婚記念日

ゲストスピーチ

「みんなできる～JOCSと賛育会の現場から～」

大江 浩氏

(赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長)

※JOCS：日本キリスト教海外医療協力会

スマイル/各種報告

閉会点鐘 会長 金丸満雄

9月例会(AYC2023 帰国報告会)

2023年8月25日から29日の5日間、ネパールのカトマンズに於いて「アジア太平洋地域ユースコンボイケーション」(AYC2023)が開催され、日本からユース16名が参加(東日本区13名、西日本区3名)されました。

9月14日、ひがしクラブ9月例会では、東京YMCAリーダーの三木祐弥さん(ひがしクラブ推薦)と丸山啓太さんをお招きして帰国報告会を行いました。

開会セレモニーのあと、ゲストの城田教寛東日本区ユース事業主任、衣笠輝夫東日本区ユース事業委員を紹介。続いて衣笠さんより推薦お礼と簡単なAYC報告のあと、三木さん片山さんより自己紹介がされ、パワーポイント使用で参加報告が行われた。「各自が自ら挑戦する」「海外の参加者に冗談を言ったり話しやすい雰囲気作り」「プログラムを盛り上げる努力」等々日本チーム全体で努力したこと。「自分たちの英語能力の低さ」「積極的にコミュニケーションを作る大切さ」「リーダー経験がすごく生きること」「英語によるディスカッションの難しさ」等々交流の中で感じたこと。日本文化を伝える場面ではピコ太郎のアップオープンで会場を盛り上げ交流を楽しんだこと。そして、日本チームに対して日本文化発信に対する最優秀賞、プログラムを盛り上げた賞、最も参加者が多い賞など3つの賞を受賞したこと等が報告がされ、終わりに、今回参加し学んだことを、2025年日本で開催されるのでこの経験を生かし、運営側に関わりたい決意が述べられ二人による参加報告は終了した。

城田主任そして衣笠さんから推薦と支援のお礼と共に、ユースを理解して温かく迎え入れ今後も、ユースへの支援をお願いする挨拶があった。ひがしクラブとしても、ユース事業への認識と理解への1ページとなった報告会であった。

🛐 今月の聖句 🛐

『わたしの王、わたしの神よ、助けを求めて叫ぶ声を聞いてください。あなたに向かって祈ります。』

—詩編5編3節—

9月例会

出席者 12名 ゲスト 4名
会員出席数 8名
在籍数 13名
(広義会員3名)

ひがし会員出席率80%

スマイル

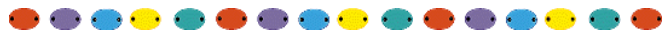
2023-2024 年度

9月 8,400円

累計 17,400円

2023-2024 年度役員

会 長 金丸満雄
副会長 鮎澤正和
書 記 高野真治
会 計 野本多美子
担当主事 沖 利柯



担当主事 沖 利柯



★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
理事メッセージ

東日本区理事 山田公平

ユースアクションを変化へのチャンスに

最初のユースアクションは、2022-23年度のワイズ年度に全国10か所で実行されました。この1年、2022年9月の中間報告会、11月の日本YMCA同盟大会、2023年2月東西日本区交流会、6月の東日本区大会、さらにはユース委員会で報告を聴く機会を与えられました。このようなユースの意欲、発想、強い意識で行われたユースアクションにはインパクトがありました。参加したユースにとっては、大きな用言、あるいは何か新しい自分らしさを発見したり、ユースにとっては大きな成功体験になったと思います。このプロジェクトを見ながら、若者たちの未来を作る助けになり、彼らの未来が何であれ、この成功体験はきっと彼ら彼女らの未来を創ることにつながっていくと思えます。これこそワイズの願いであり、YMCAと共に使命として考えられることだと感じました。

今ワイズ運動の使命は何か？

どんな団体も時代の中で変化をして、その危機を脱却していく時が出てきます。その時に、自らの使命を社会の変化に応じた形で表明し、新しい一歩を踏み出す勇気と決断が必要になります。どこからスタートすべきでしょうか。YMCAでは過去10年近く、ユースエンパワメントという言葉が頻繁に出てきました。それは、ユースの活躍を可能にする社会の実現であると考えられます。急速に変化していく社会とその課題にユース自身が挑戦していけるように、ユースをエンパワーしていくことが求められています。

ワイズの役割は？

私の本年度の理事主題として挙げたのは、「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！」という言葉です。未来社会にユースが迎える課題が何であり、それらに備え、自らが動きながら学びと気づきを得る機会を必要としていると考えます。未来社会に生きるユース世代には、変えていくための自信が生まれていくことが大切です。その結果、自分たちの知恵と協力と勇気があれば、より有意義な人生を築けるという自信を感じてもらおうことではないでしょうか。

そのためにワイズはどういう変化をしていくのでしょうか？

昨年度のユースアクションは高く評価されていましたが、ユースアクションにかかわる機会がなかったという評価も聞こえてきます。全国で10か所ですから、多くのクラブにはユースアクションを知らない、効果が見えない、感じられないということでした。東日本区大会や東西日本区交流会で報告したユースの堂々とした姿には、多くの人が驚かされたと思います。まさに、自信が生まれたということや社会に役立てたという喜びを感じられた体験になったということが聴く側にも感じられました。

(理事通信2号より抜粋)

▼第26回会員芸術祭

今年もオンライン芸術祭として開催し、東京YMCAのHP上に9～10月の2カ月にわたり作品を掲載しています。会員、職員の他、東京YMCAの各施設（児童館、学童クラブ、にほんご学院、高等学院、山手書道教室他）からも出展があり、絵画、写真、陶芸、工作、書道など、85点の多彩な作品が集まりました。是非ご覧ください。

▼東京YMCA山中湖センター100周年記念募金

今年、山中湖センターが開設100周年になるのを記念し、「東京YMCA山中湖センター100周年記念募金」を行います。10月1日からクラウドファンディングを、11月からは口座振込等による募金受付を開始します。目標額は2,000万円とし、貧困等によりキャンプに参加できない子どもたち100人をキャンプに招待するプロジェクト、プログラム施設の新設、宿泊施設のリノベーションに用います。

▼東京YMCA チャリティーラン

9月23日開催のチャリティーランでは、東陽町チームへのご支援また当日のご声援など様々ありがとうございました。心配していたお天気も何とかかなり、ランの結果は5位！素晴らしい成績に驚きと嬉しさでいっぱいです。混成チームではありませんでしたが、一人ひとりが精いっぱい走りタスキをつないでくださいました。また三菱商事のDream as oneという特別賞までいただきました。

▼「出動！クリーンレンジャー」大成功

10月1日（日）天候にも恵まれ「出動！クリーンレンジャー」が開催され、25家族（グループ）81人（子ども36人を含む）が、江東幼稚園から東陽町センターまでの約2キロをクリーンアップしながら歩きました。月に一度東陽町コミュニティセンターで実施しているごみ拾いプログラム「クリーンウォーク」をもっと広めたいと願い、そのためには楽しくなければ…ということで会員、スタッフ一緒に考え、イベントとして実施しました。途中2つのラッキーポイントではゲームに答えたり、クリーンじゃんけん挑戦したり。また道すがら見つけたゴリラポイントでは写真をパチリ、そして今日一番の素敵なショットも写真に収めてもらいました。1時間半がんばって歩いたゴールで計量をすませた後は、ワイズメンズクラブの皆さんによるかき氷で喉を潤し、焼きそばで美味しい昼食を食べました。続く表彰式ではごみの内容、量でポイントに換算して1位～3位を決定。三家族にプラスチックを再利用してきたトレーや洗剤、ろうそ等の賞品をお渡ししました。また、今日一番の素敵な写真から5点特別賞が選出され、講評と共に海苔の詰め合わせなどをプレゼントしました。ボランティアでご協力いただいた方は50名にも上りました。企画から実施まで本当に有難うございました。お陰様で秋の一日、みんなで楽しくSDGsの取り組みができました。



感謝をもってご報告いたします。



★今月の結婚記念日

今井一夫・爽子ご夫妻（15日）
須田哲史・由美子ご夫妻（8日）

